

////////////////////////////////////

Kizuna

////////////////////////////////////

第15号

発行日 平成14年9月30日



育英友の会 中国支部報

発行所 育英友の会 中国支部
690-0823 松江市西川津町1060
島根大学学生課奨学厚生係

発行責任者 浜田富次
編集担当者 黒田俊郎

////////////////////////////////////

報告

=== 平成14年度 育英友の会「中国地区奨学生の集い」 ===

山口県萩青年の家

平成14年8月9日(金) - 11日(日)

実行委員長 宇都宮 宏

8月9日(金)～11日(日)山口県萩青年の家を会場にして、標記の集いを開催し、今回のテーマ「萩学 - その歴史と萩焼き体験 -」を終えた。

当初は、参加奨学生が極めて少なく中国5県のほぼ全部の高校に配布した募集資料が全く無駄(各県教育委員会後援)で、高校の奨学生の参加のない県もある。急遽実行委員各位にお願いして、26名の奨学生(高校・短大・大学)、6名の実行委員、4名のオブザーバーのメンバーとなった。参加者集めは、身にしみて難しい。

「萩の歴史」は、弥生時代から豊臣時代までと徳川時代の萩藩毛利氏の藩政の内容について詳細を得た。「萩焼き体験」は、手ひねりで抹茶茶碗を作陶した。時間をかけ、丁寧に仕上げているので、個性溢れる作品に出来上がっているものと考えられる。

「史蹟探訪」は、炎暑の最中、萩の名所・史蹟の説明を聞きながら、楽しく探索した。「テーマトーク」は、5班に別れ、1～2名の実行委員をアドバイザーをお願いして、意見交換・討議を重ね、まとめて発表していただいた。「バーベキューの夕べ」も楽しい交流の場になった。

今回も「一期一会」、また新しい出会いと別れがある。若い青年には、「自利利他」の精神で、人の世を精進(devotion)・禅定(meditation)・正語(not telling a lie)・忍辱(forbearance)の心構えを持って生きていただきたい。年配の皆様には、残りの人生を"さわやかに"お過ごし願いたいと祈念している。

平成14年度の育英友の会「中国地区奨学生の集い」実施にあたっては、山口ブロックの吉武さんより事務サイドから格別なるご厚情をいただいた。心より厚くお礼申し上げます。

エッセー *****

韓国 慶尚南道「頭洞里陶窯」の大井戸茶碗及び

小井戸茶碗陶片の元素の定性と定量分析

山口ブロック 山口大学農学部 宇都宮 宏

2000年3月22日から韓国 慶尚南道 鎮海市頭洞里金谷山142、146、147番地の「頭洞里陶窯」の調査を開始して、採取した井戸茶碗(大井戸、小井戸、青井戸、小貫入)の多くの陶片、2001年3月27日の河東白蓮里から陶片採取、そして現在の頭洞里の陶土と陶石の採取をふまえて、整理してみると、陶片の色は、焼成が酸化、中性あるいは還元状態で変り、また焼成温度の高低によっても変化する。「頭洞里陶窯」出土の大井戸茶碗の陶片は、赤褐色であるが、小井戸、青井

| 無機元素 | 頭洞里窯 井戸茶碗 の陶片(赤褐色) | 頭洞里窯 井戸茶碗 の陶片(黄色) | 頭洞里の 陶土(黄 白色) | 頭洞里の オオリン (又白色) | 河東白蓮 里の陶片 (黄色) |
|--------------------------------|--------------------------|-------------------------|---------------------|-----------------------|----------------------|
| SiO ₂ | 71.65 | 74.67 | 74.37 | 75.10 | 74.36 |
| Al ₂ O ₃ | 17.34 | 15.26 | 17.02 | 13.80 | 17.21 |
| Fe ₂ O ₃ | 4.36 | 2.56 | 2.30 | 1.35 | 2.45 |
| MnO | 0.13 | 0.03 | 0.04 | 0.01 | 0.01 |
| MgO | 0.57 | 0.49 | 0.26 | 0.15 | 0.85 |
| CaO | 0.57 | 0.51 | 0.52 | 0.25 | 0.06 |
| Na ₂ O | 0.62 | 0.49 | 0.93 | 2.17 | 0.38 |
| K ₂ O | 2.59 | 1.69 | 4.05 | 4.50 | 2.68 |
| P ₂ O ₅ | 0.05 | 0.03 | 0.02 | 0.01 | 0.04 |
| TiO ₂ | 0.92 | 1.12 | 0.21 | 0.12 | 0.83 |
| Total | 98.79 | 96.84 | 99.71 | 97.46 | 98.86 |
| * | | | | | |
| FeO /MgO | 2.50 | 1.55 | 1.65 | 1.06 | 1.19 |
| ppm | | | | | |
| Ba | 580.0 | 382.0 | 848.0 | 912.0 | 582.0 |
| Co | 6.4 | 6.0 | 3.8 | 0.8 | 7.7 |
| Cr | 28.7 | 46.3 | 4.6 | 1.5 | 70.4 |
| Cu | 17.1 | 10.5 | 9.4 | 5.3 | 18.6 |
| Ga | 20.6 | 16.1 | 17.3 | 11.3 | 20.5 |
| Nb | 15.7 | 17.8 | 8.3 | 6.9 | 19.2 |
| Ni | 12.0 | 14.6 | 1.4 | n.d. | 36.6 |
| Pb | 72.8 | 46.8 | 26.7 | 7.5 | 21.0 |
| Rb | 107.0 | 94.9 | 137.0 | 136.0 | 132.0 |
| Sr | 89.6 | 72.1 | 83.7 | 105.0 | 45.8 |
| Th | 15.3 | 16.7 | 19.6 | 17.3 | 16.9 |
| V | 69.2 | 60.5 | 18.1 | 7.2 | 73.0 |
| Y | 37.8 | 38.1 | 26.6 | 17.1 | 41.3 |
| Zn | 178.0 | 74.3 | 61.0 | 39.3 | 65.6 |
| Zr | 351.0 | 314.0 | 148.0 | 130.0 | 285.0 |

n.d.; non detected

Totalが100%にならないのは、灰物の結晶水や吸着水があるためである。Loss on ignition と表現する。

* ; 鉄は、2価と3価があるが、高温でガラスにしているので、全て Fe₂O₃である。

戸、小貫入には、黄色、黄白色または灰白色に近い白色土が多い。河東白蓮里の陶片は、黄色からピンクがかかった土である。

井戸茶碗の陶片の無機元素の定性及び定量分析にあたっては、頭洞里陶窯の大井戸茶碗の赤褐色の陶片と小井戸茶碗の黄色の陶片、河東白蓮里の黄色の陶片、さらに頭洞里の現在の陶片と陶石を試料とした。まず陶片を微粉にし、ビードサンブラ装置（東京科学株式会社製 NT-2100）でガラスビードを作った後、プレスマシンで加圧ペレットにする。化学組成の測定は、全自動蛍光X線分析装置（理学電気工業株式会社製 RIX3000）で元素の定性と定量分析を行った。結果は、大井戸茶碗の赤褐色の陶片の方が、 Al_2O_3 、 Fe_2O_3 、 MnO 、 MgO 、 CaO 、 Na_2O 、 K_2O 、 P_2O_5 の含有量が小井戸茶碗の黄色の陶片より多量の結果が得られ、微量元素では、大井戸の陶片の方が、Ba、Co、Cu、Ga、Pb、Rb、V、Znの量が多いことが認められる。頭洞里陶窯で焼成された陶片には、 Fe_2O_3 と MnO が比較的高い値を示しているのが特徴である。これに対し、河東白蓮里の黄色の陶片は、作陶からすると、頭洞里の大井戸茶碗作陶よりすこし後の時代のものと考えられる。頭洞里の黄色の陶片の化学組成と比較してみると、頭洞里の黄色の陶片が、 SiO_2 、 Fe_2O_3 、 MnO 、 CaO 、 Na_2O 、 TiO_2 が多く、微量元素は、Pb、Sr、Zn、Zrが多いことが明らかになった。 Fe_2O_3/MgO は、頭洞里の黄色の陶片の方が値が高く、河東白蓮里の黄色の陶片は、ややうすい黄色、すなわち、黄白土。白いカオリンが多く入れられていることになる。

現在の頭洞里の陶土と陶石の場所をここ数年さがしてきた結果、その場所を発見してから、陶土と陶石を調査した結果、現在の頭洞里の陶土は、カオリンを含む白土と赤褐色の土が混合した状態で地下にあり、赤褐色土が多く含まれれば、赤褐色の濃い陶土となり、逆に赤褐色の量が少量であれば、黄色 - 黄白色の陶土になる。また頭洞里の陶石（カオリン）は、灰白色の土である。

2001年5月29日の「頭洞里陶窯」の試掘中、トレンチ状態で陶片を観察した時、下層には、三島 - 刷毛目 - 粉引。そして井戸茶碗の陶片（赤褐色 - 黄色 - 黄白色）、上層に白磁陶片が厚く層構造に積重なっている事実から、年代の古い下層の三島 - 刷毛目 - 粉引 - 大井戸茶碗は、赤褐色の土が使われている。その後は、カオリンの多い白土が主力に使用され、次第に黄色から黄白色土へ、そして白色の土が多く使用されるようになり、白磁は、粗質白磁から純白磁へと純度の高い白色土が使用されるようになる。従って、頭洞里で焼成された大井戸茶碗の土は、赤褐色で、土が黄色 - 黄白色に移行する前に作陶され、焼成されていると考えてよいであろう。土は、黄色 - 黄白色 - 白色の順に使用されていく中で、種々の小井戸、青井戸、小貫入等の茶碗類が焼成されていったと考えられる。

以上のことから、赤褐色を多く含有した大井戸茶碗の方が、黄色・黄白色あるいは白色の土を使ったものより、作陶時期は、若干早いと判断してよいであろう。

筆者は、大井戸茶碗は、1550年前後から1598年ごろまでの短い期間に焼成され、熊川（または釜山）から日本へ豪商等の船によって、はこばれ、伝来したと考えている。

2002年3月22日～24日 鎮海市文化観光協会 宋教洪会長と熊川茶人会 任甲出会長の要請を受け、「頭洞里陶窯の熊川茶碗・井戸茶碗について」及び「日本の茶文化の発展と茶陶について」の2題の講演を行った。前者は、「頭洞里陶窯」の発掘調査の経過と出土した熊川茶碗、大井戸・小井戸・小貫入茶碗の種類と茶の湯茶碗の特徴を報告、後者は、日本における室町・安土桃山時代の茶文化の発展と茶の湯に使用された茶陶について詳細に報告。「頭洞里陶窯は、本年3月から2004年まで本格調査が実施されること、その後、環境整備されて、資料館が建設される内容も話した。その報告内容は、3月25日の新聞の朝刊にトピックスとして報道された。また、2002年4月21日には、韓国 MBC文化放送のTVの取材の為、金昌垣制作1部長他李 煥氏、孫武成氏、申翰均氏ら計5名のスタッフが来室。取材に応え、「頭洞里陶窯」が大井戸茶碗及び小井戸茶碗等井戸茶碗の焼成された窯である根拠について報告、また大井戸茶碗及び小井戸茶碗の陶片の無機元素の定性と定量分析の測定結果を初めて報告した。そして頭洞里陶窯は、2004年まで本格発掘調査が継続され、その後、環境整備されて、84億ウォンの予算で資料館建設がすでに決定されている内容を報告した。

それにしても韓国の行政の対応は、迅速で美事、実にさわやかである。私も人一倍行政に感謝し、大変喜んでいる。



韓国 慶州市来台 1 里の古陶磁窯の調査



山口ブロック 山口大学農学部 宇都宮 宏

2002年3月24日(日)慶州在住の高 煥氏の車に乗って、慶州市来台 1 里の山奥の窯の調査へ出発する。

朝鮮時代の「世宗実録地理志」(1454年)からは、慶州市内には、磁器所が大谷村と勿伊村の2カ所、陶器所は、水吉村と草谷村の2カ所が記録されている。またこれよりさかのぼって、高麗陶窯として、慶尚北道 月城見谷面来台里がある。この高麗陶窯は、現在調査済みで、結果は、10~11世紀の緑青磁 1 其と15~16世紀の粉青沙器の印花文と刷毛目の陶片のあることが報告されているが、本調査の古陶窯とは異なる窯である。

慶州市来台 1 里の古陶磁窯の調査からは、谷の小川をはさんで、両側は山腹の斜面になっており、その斜面を利用して、窯されている。窯の長さは、若干右側にカーブを描く長い窯で25m程度であるが、窯部は、途中車1台が通る道が横切っており、上部は、最近墓がつくられている。その間の調査に限られる。陶片の調査の結果は、青磁、粉青沙器、白磁、土器の流れをくむ陶磁片が出土する。詳細な観察からは、青磁片は、14世紀の朝鮮時代初期の陶片である。粉青沙器については、朝鮮時代前期の印花文、刷毛目、粉引がみられる。印花文には「礼賓三島」が焼かれている。当初ひょっとすると「慶州長興庫」の陶片が出土するとよいのだがと期待していたが、残念ながら異なっている。また渦三島も採取、花三島も良品を採取することができた。これらの粉青沙器で興味をひいたのは、積ね焼きされている陶片の中に、下部のものは粗質のものを置き、上へ湯三島、そして「礼賓三島」をさらに積んで置いていることである。陶土も下部のものは、鉄分を多く含み、上部ほど鉄分の少ない陶土が使用されていることである。このような職人の先見ある作陶と焼成対応は、みごとであると感服している。すばらしい職人の精神ある作陶と焼成である。白磁は、精度の高い純白磁から、次第に白磁が衰退していく過程の白磁、さらに粗質白磁へ移行する過程の陶片が明確に認められる。白磁は、15~16世紀中期までの磁片が出土する。このほか、オンギとも考えたが、やはり土器の流れをくむものと考えた方がよい土器の流れをくむ陶片が出土する。このように、長い期間、同じ場所で継続して焼成されている窯である。

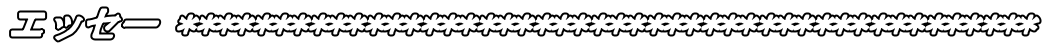
本調査にみられる窯では、長期間焼成されており、採取陶磁片の観察からも粗質のものから精微なものが混じって出土している。従って、窯は、官窯・民窯と区別するより、役所使用の焼物、すなわち、礼賓三島や進上品及び注文品を焼くと同時に、時代や社会状況の変化に伴って、大量生産や庶民用の日用雑器も多く焼成している窯と判断し、認識する方が事実に近いと考えられるが、いかかであろうか？筆者は、以上のように考えている。

慶州市来台 1 里の古陶窯では、土器の流れをくむものから、粉青沙器の礼賓三島の官窯的なもの、そして極めて精度の高い白磁、逆に、粗質白磁、さらに庶民用の雑器まで、途中でたえることなく継続して幅広い陶磁器が焼成されている。

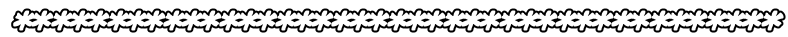
今後、本格調査が実施されることを強く望んでいる。短時間ながら、慶州市来台 1 里の古陶磁窯の調査を終え、慶州市街へ戻る途中、慶州市忠孝洞の慶州陶石(カオリン)採取場に向う。採取した慶州陶石(カオリン)の無機元素の定性と定量分析を全自動蛍光X線分析装置(理学電気工業株式会社製 RIX 3000)で測定した結果は、SiO₂; 77.41%、Al₂O₃; 13.64%、Fe₂O₃; 0.29%、MnO; 0.02%、MgO; 0.09%、CaO; 0.23%、Na₂O; 3.04%、K₂O; 4.50%、P₂O₅; 0.04%、TiO₂; 0.10%、Total; 99.35%、Fe₂O₃/MgOは0.24、微量元素は、Ba; 17.60ppm、Co; 1.0ppm、Cr; 3.7ppm、Cu; n.d.、Ga; 12.2ppm、Nb; 12.8ppm、Ni; 3.5ppm、Pb; 17.0ppm、Rb; 121.0ppm、

Sr ; 17.2ppm、Th ; 7.2ppm、V ; 8.2ppm、Y ; 21.8ppm、Zn ; 13.7ppm、Zr ; 39.7ppmの値であった。この慶州陶石（カオリン）は極上の陶石で、陶芸家にとっては、是非求めたい陶磁土の1つであろう。日本には現在朝鮮カオリンとして、河東カオリンが入れられているが、慶州カオリンの方が上質であると言えよう。これらの陶石・陶土は、江戸時代の釜山倭館の釜山窯にも使用されている。

今回の調査を終え、慶州在住時に、高 煥・金仁順じ夫妻より、李朝後期の桃刑白磁に染付と辰砂された水滴1個と鯉を陽刻しに白磁へ染付された水滴1個の計2個の水滴をいただいた。ご芳情感謝。日常大切に使用する所在である。



韓国 永川市古鏡面徳井里の古陶磁窯調査（2）



山口ブロック 山口大学農学部 宇都宮 宏

2002年3月24日 慶州市来台1里の古陶磁窯の調査に引き続いて、永川市古鏡面徳井里の古陶磁窯3ヶ所を調査した。その結果、1．灰青出土の小窯からは、新しく粉青沙器の刷毛目の鉢と2個の黒釉の小壺・瓶の陶片を採取した。従って、灰青の小皿、刷毛目の鉢、黒釉の小壺・瓶が朝鮮時代前期に焼成されている。陶片はいずれも粗雑で、厚く、庶民用の民窯の陶器が焼成されており、現在、窯は崩壊し、額ほどの小面積を利用して、段々畑にされ、野菜が植栽されている。2．粉青沙器の窯からは、印花文と刷毛目の陶片が出土。いずれも鉢である。この窯は、傾斜角度の大きい登窯で、長さ25m前後はある窯で粉青沙器の三島印花文・渦三島・刷毛目の小皿・鉢・碗が出土する。積ね陶片の観察からも下の皿の陶土には、鉄分が多く、皿内の底は無文であるが、中の皿には、陶土に鉄分が少なくなっており、皿内の底は、渦三島に白く象嵌されている。上の皿の陶土は、鉄分が少なく、皿内は「永川」の白い文字が象嵌されている。この窯では、朝鮮時代前期の役所で使用されている小皿が焼成されていることを物語る事実が認められる。しかし、刷毛目等の鉢・碗には、進上品や献上品あるいは注文品にみられるような丁寧さ、正確さはなく、民窯として庶民用の日用陶器も焼成されている。この窯の斜面には、灰青の陶片が散乱状態に放置されている。現在は、墓に利用されている。3．白磁の窯は、1．2の窯よりさらに山奥に位置するが、全く人の手がつけられていない。山奥の不便さもあってか、窯と焼成された陶片は、山積され放置状態にあり、今日までよく残っていたと感心するやら、また出土陶片の調査も期待が大きい。調査から、粗質白磁 - 純白磁 - 青白磁の盃・小皿・小鉢・碗等の陶片が多量にあり、いずれも小型である。特に粗質白磁の中には、天目茶碗から井戸茶碗に移行する過程と考えられる鉢がみられ、注目している。すなわち、口辺部と腰部（高台脇）のロクロさばきと、高台削り技術は、興味をそそられる。また純白磁の薄作りの皿は美事であり、進上品・献上品または注文品を焼成したものと考えられる。作陶技術や高台削り技術はレベルが高い。この白磁の窯は、早い時期にトレンチして、試掘してみたい古磁窯である。発掘が実現すれば、粉引茶碗や井戸茶碗の陶片が下層より出土する可能性が有りそうに考えられる。

永川市古鏡面徳井里の古陶磁窯は、高麗時代末期から青磁の衰退したものが朝鮮時代前期まで焼成されており、白磁の染付・辰砂・鉄砂の陶片はまだ出土していない。

ところで、朝鮮時代の「世宗実録地理誌」（1454年）には、磁器所1ヶ所として、永川市原山谷里、陶器所1ヶ所は、永川市蒲背月谷里の2ヶ所が記録されており、このほかに詳細な資料はない。本調査の3ヶ所の窯は、上記の2ヶ所の窯ではなく、後の時期に 窯された窯であろうと考えている。もうすこし、慶州市内の古陶磁窯の発掘結果が明らかになれば、永川市古鏡面徳井里の3ヶ所の窯との関連も明確になるであろうと考えている。

3月26日慶州から釜山へ、ロッテホテル1階の玄関横で李朝家具と鎮海の陶芸家崔雄 鐸氏の

作品展が開催されていたので、拝見。陶工技術が上達してきているの喜び、今後の活躍を期待する。

現在の粉青沙器匠の中では、嶺南釜の金正玉氏の井戸茶碗は、形状もよく、日本人の好みもよく研究しているが、市販等の陶土を使用しているため、やはり深い親しみと味わいが無い。しかし、日本人好みの形状で、ロクロ技術もよく、日本人でも金氏の茶碗を好む人も多い。金氏は、韓国の重要文化財第105号沙器匠に認定されている。千漢鳳氏は、日本に長く住んでいたせいも、江戸時代の釜山窯で焼かれた御本・伊羅保・堅手・斗々屋等やや高温で焼成した茶碗にすぐれたものがあり、これも日本人の好む作品を適格に焼成している。現代の粉青沙器の新しい独創の輝きを目指しているのは、ソウルの申相浩・劉炳豪氏の作品にすばらしいものがある。この4名が粉青沙器匠としてすぐれた陶工技術を持ち、すばらしい作品を焼成している。

今回は、12世紀の青磁茶碗を拝見する機会に恵まれたが、よくみると、青磁の色がすこしあせ、碗内の鏡が中国製に比べ、ルーズであり、韓国で焼成されていることが明らかである。しかし、高台脇の削りが美事であり、茶の心を熟知した職人が作陶した青磁茶碗であると考え、よい教材になるなと考えていた矢先、李友垣先生が「12世紀の青磁茶碗！宇都宮先生！よい教材になるから持っていきなさい！！」といきなはからい。まさに「以心伝心」とはこのことか？勿論、喜んで有難く拝受することにした。観察の結果、蛇の目の高台、鏡の仕上がり、高台脇り等の作陶からして、茶の湯の心を熟知した職人の青磁茶碗で、14世紀の朝鮮時代初期に金羅南道康津の窯で焼成されたもので、クラッチもなく、茶の湯には実により青磁の名碗である。まさに、「一期一会」、幸運な出会いと貴重な出来事である。李先生に心より保謝申し上げたい。

中国支部事務局 〒690-0823 松江市西川津町1060 島根大学学生課奨学厚生係
(担当者：学生課長 森下 顕一郎、奨学厚生係長 新田 真理子)(0852-32-6063)

各ブロック連絡先 近いところにご連絡ください。

| | | | |
|-------------|-------|--------------|-----------------------------------|
| <鳥取> | | | |
| 鳥取大学教育地域科学部 | 石川行弘 | 0857-31-5141 | yishikaw@fed.tottori-u.ac.jp |
| 鳥取工業高校 | 松川明義 | 0857-51-8011 | amatsukawa@ma2.justnet.ne.jp |
| <島根> | | | |
| 島根大学契約室 | 浜田富次 | 0852-32-6033 | hamada@jn.shimane-u.ac.jp |
| 島根大学生物資源科学部 | 倉橋 幸 | 0852-32-6029 | kurahashi@jn.shimane-u.ac.jp |
| <岡山> | | | |
| 岡山県立大学 | 大久保雅史 | 0866-94-2106 | okubo@cse.oka-pu.ac.jp |
| 岡山大学 | 黒田俊郎 | 086-251-8345 | kurotos@cc.okayama-u.ac.jp |
| <山口> | | | |
| 山口大学学生生活課 | 吉武志津江 | 083-933-5165 | GA112@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp |
| 山口大学学生生活課 | 砂田典明 | 083-933-5164 | GA113@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp |
| <広島> | | | |
| 広島大学学生部就職課 | 空 俊雄 | 0824-24-6167 | |
| 広島大学学生部就職課 | 北升正文 | 0824-24-6169 | |
| | 小林俊一 | 0829-39-7793 | |

「絆」16号予告 原稿しめきり 平成14年11月30日 お手元には1月末頃届きます

===== 編集後記 =====
編集後記のスペースもないくらい多数の原稿。ありがたい。16号も乞うご期待。(t)
=====